

省力・高品質化が図れる オウトウ「佐藤錦」の平棚栽培

オウトウは立木栽培が一般的ですが、高木化しやすいため、収穫などの管理が脚立を使った危険な高所作業となり、多くの労力と時間を必要とします。また、果実の裂果を避けるためには高い雨除け施設が必要になります。そこで、福島県農業総合センター・果樹研究所では、低樹高による省力化と高所作業の危険回避を目的に、オウトウの平棚栽培を検討し、省力効果とともに品質の向上が図れる等、その実用性を確認したので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. アオバザクラ台「佐藤錦」の主幹を地上1.3mで二分し、高さ1.8mの棚に二本主枝で整枝し、植栽距離は7×7m（20本/10a）とします。主枝長は約4mとし、側枝は主枝の両側に肋骨状に配置します。側枝の間隔は35～40cmとします（図）。
2. 平棚栽培では、慣行栽培に比較して樹冠の拡大は早いものの、主枝や側枝の形成に時間を要するため、面積当たりの収量は7年生までは少ないですが、8年生では慣行栽培と同等の収量となります。
3. 平棚栽培では、果実の大きさや糖度には差はありませんが、着色は慣行栽培より優れ、秀品率が約5割向上します。
4. 平棚栽培では、脚立を使用しないので作業効率が良く、果実1kgを収穫するのに要する時間は慣行栽培に比べ約2割短縮できます。また、発育枝も含めた樹高が3m程度に抑えられ、低い雨除け施設の利用が可能となり、雨除け被覆作業の危険性も軽減されます。
5. 平棚栽培では、5年生頃までは樹形形成のためせん定量が多くなりますが（特に夏季せん定）、それ以降のせん定量は少なく、せん定作業も単純です。

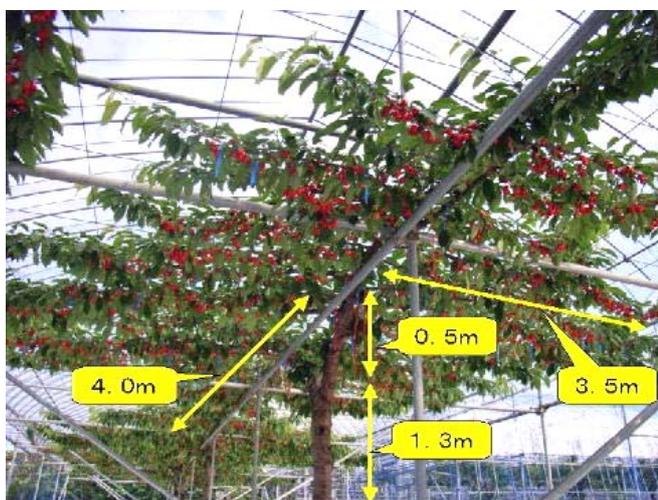


図 オウトウ「佐藤錦」の平棚栽培

☆ 活用面での留意点

1. 樹形形成期には樹冠の早期拡大につとめるとともに、不要な新梢の摘心や夏季せん定（5～7月頃に基部の葉5～6枚を残して切り戻す）の活用により、樹形の乱れを防ぎます。
2. 結果部が低いと晩霜害を受けやすいので、防霜対策を徹底します。
3. 脚立を使用せずに収穫できるので、観光果樹園での集客に有利です。
4. 詳細については、福島県農業総合センター・果樹研究所・栽培科（電話：024-542-4951、電子メール：nougyou.kajyu.@pref.fukushima.jp）にお問合せください。

（日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 後藤 明彦）